

学習ノート「立誠舎記」2

令和5年5月6日（担当 俊彦 左起子 繁子 梅井）

原文

- ・而我之講_ニ學_ニ於此地_一者、蓋亦故人潛堂之意也、嗚乎立誠之學、豈易_レ言哉 昔者劉元城、見_ニ司馬溫公_一、
- ・問_ニ盡_ニ心行_一己之要、可_ニ以終身行_一之者、溫公曰、其誠乎、行_レ之何先、自_ニ不_ニ妄語_一始、元城始甚易_レ之、退而自覺_ニ其難_一、
- ・行_レ之七年而後成、夫元城在_ニ元祐君子之黨_一、莫_レ有_ニ之先者_一、而蘇長公嘗推_ニ其操_一、以爲_ニ眞鐵漢_一不_レ可_レ及也、以_ニ如_レ此之稟質_一、而厲精勉力、
- ・拳々無_レ失、待_ニ七年之久_一、而後始得_ニ至_ニ凜然獨立、擲撲不_レ破之域_一矣、
- ・然而其所_ニ自得_一、猶未_レ敢知_ニ其於_ニ子思子所_レ謂至誠之道_一、果何如_ニ也_一、

読み

- ・而して我の學をこの地で講ずるは、蓋し亦故人潛堂の意なり、嗚乎立誠の學、豈言い易からんや、昔、劉元城、司馬溫公にま見えて、
- ・心尽くして己を行ずる要、以つて終身之行ずるべき者_{こと}を問う。溫公曰く、其れ誠かと。之を行うに何を先とするか、妄語せずより始めよ、元城始め甚だ之を易しとし、退りぞきてその難しさを自覺す
- ・之を行ひて七年の後成る、夫れ元城は元祐君子之黨に在り、之に先ずる者有ること莫し、而して蘇長公_{そちようこう}嘗つて其操を推し、以て眞の鐵漢も及ぶべからずと爲す也、此の如くの稟質_{ひんしつ}を以て、而厲精勉力し、
- ・拳々_{けんけん}失無く、七年の久しきを侍り、而後始めて凜然獨立、擲撲_{てんぱく}破らずの域に至を得るかな。然り其の自得する所、猶未だ敢えて其れ子思子の謂う所の至誠之道に果して何如を知らざるなり。（梅井）

訳

- ・だから私の学問をここで講義するのは旧知の潜堂氏の願いでもある。ああ、「立誠」という学問は、ほんとに言うは易しいことだが易しいことではない。昔劉元城が司馬溫公に出会い、
- ・心を込めて修業する大事なこと、また一生かけて行うべきことを問う。溫公は、言った。其れは誠であると。これを行うのはまず何が先か（と問うと）。嘘を言わないことから始めよ（と答えた）。
- ・元城は初めはとてもやさしいことだ思ったが、後で、その難しさを自覺した。
- ・これを行い七年の後、達成した。元城は元祐君子之党にいて、彼より先んずる者はいなかった。それで蘇長公はその意志が強く、節操の正しさを誉めたたえ、剛直で不屈な男で及ぶものはいないとした。このような天性の性質をもって 一所懸命励み努めた。
- ・氣力を失うことなく、七年間の長きにわたった。その後も凜々しく独り

立ちし、擲撲破らずの域に達した。しかしながら、その自得するところは、猶未だ敢えて其れ子思先生の謂う所の至誠之道に果してどうだったかはわからない、

語句

豈Ⅱ文末に「乎」「哉」などを伴い「あに……や」と呼応して、訓読することが多い。どうして……か。反語

乎Ⅱ力 であろうか だろう であるなあ

者Ⅱ時間をあらわす語を強調する。「昔者」Ⅱセキシヤむかし 以前

もの、こと 「ゝものハ」「ゝは」「ゝト は」と読み、「ゝは」「ゝとは」と訳す。主語を明示して強調する意を示す。

見Ⅱまみーえる

劉元城Ⅱ劉安世 司馬光を師として哲宗に仕えた

司馬溫公Ⅱ北宋の学者

妄言Ⅱうそをいう

鐵漢Ⅱ鋼鐵のような体と心を持った男

蘇長公Ⅱ北宋の政治家

鐵漢Ⅱ鋼鐵のような体と心を持った男

稟質Ⅱ生まれつきの性質

然而Ⅱ、「しかり しかウシテ」と読み、「それにもかかわらず」「そのようなので」と訳す。

拳々Ⅱよく務めるさま

思子Ⅱ孔子の孫

厲精Ⅱレイセイ 一生懸命にはげむ

擲Ⅱテン 参考 擲撲不破

撲Ⅱボク うつ